

福島のヒト・モノ・コトをつなぐ拠点都市『郡山』

今生まれる新たなコミュニティとイノベティブな取組を一挙紹介！

首都圏初開催！「つながるまち 郡山 MEET UP！」

～郡山ブランド野菜、鯉、クリームボックス、地酒など郡山のご当地グルメや伝統工芸の実演も～
を開催しました



ターゲット 17.17 TEL：924-3711

令和2年2月28日

郡山市文化スポーツ部

国際政策課

担当：小川 俊介

SDGs ターゲット 17.17 「公民、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する」

首都圏のマスメディアの皆様を対象に、首都圏での郡山市の認知度向上を目的に、シティプロモーションイベント「つながるまち 郡山 MEET UP！」を、首都圏で初めて開催しました。

新たな取組を開拓する『拠点都市こおりやま』のキーパーソンの方々を併せて紹介します。

＜「つながるまち 郡山 MEET UP！」開催概要＞ ※詳細は別添のとおりです。

◆日 時：2月5日（水）午前3時～午後5時30分

◆場 所：株式会社オズマピーアールセミナールーム

（東京都千代田区紀尾井町3-23 文藝春秋ビル新館8F）

◆参加数：14社18名

◆第一部：セミナー

①郡山市プレゼンテーション「拠点都市こおりやま」

郡山市国際政策課 国際交流員 ヨースト・クラルト



郡山の魅力を語るヨースト・クラルト

②トークセッション/登壇者紹介

◇テーマ①「つながりから生まれるものづくり・サービス」

・笹の川酒造株式会社 総務部 安斎 茉莉さん

・高柴デコ屋敷 大黒屋本家21代目当主 橋本 彰一さん

・郡山観光交通株式会社/孫の手トラベル 代表取締役社長 山口 松之進さん

・株式会社富久栄商会 代表取締役 中島 茂さん

◇テーマ②「今求められるコミュニティづくりとは」

・有限会社仁井田本家 女将 仁井田真樹さん

・一般社団法人ブルーバード 代表理事 佐藤 哲也さん

・株式会社エフライフ 代表取締役社長/スナックマスター 小笠原 隼人さん

・温泉ゲストハウス湯 kori 代表 渡部 景秋さん

◆第二部：交流会

郡山の食や観光の紹介に加え、各事業者がブースを出展。

郡山産農産物や地酒・珈琲などの試食・試飲のほか、事業内容を説明しました。

※ 郡山の食：鯉の甘露煮、郡山ブランド野菜、クリームボックス、薄皮饅頭、日本酒、ウイスキーなどご当地グルメ



交流会の様子

※ 参加いただいた事業者様のプロフィール等を添付いたしましたので、各事業者様への取材の際の参考にしていただければ幸いです。

■参加事業者プロフィール

テーマ①「つながりから生まれるものづくり・サービス」

●笹の川酒造株式会社 総務部 安斎茉莉さん



本宮市出身。アメリカへ留学後、郡山市にある笹の川酒造へ2017年に就職。創業以来「人を幸せにする酒造り」をスローガンに、幅広い酒類の製造をしてきた笹の川酒造のスッキリとキレのある日本酒をはじめ近年国内外で需要が高まってきたウイスキーの商品企画やPR等に携わる。風評被害が払拭されていない中でも笹の川酒造の魅力ある商品の国内外への発信に取り組んでいる。

●高柴デコ屋敷 大黒屋本家 21 代目当主 橋本彰一さん



「高柴デコ屋敷」大黒屋本家 21 代目当主。平成 9 年東北生活文化大学生生活美術学科を卒業、6 年間福島県立高校で美術の教師を務めたあと、父の病気のため家業に戻り修行に入る。平成 20 年 株式会社デコ屋敷大黒屋を設立し代表取締役役に就く。平成 22 年デコ屋敷本家大黒屋 21 代当主となる。2011 年、同世代の中田英寿氏が立ち上げた、伝統を継承する“匠”が持つ価値と可能性を発掘するプロジェクト「REVALUE NIPPON PROJECT」へ参加。歴史伝統を重んじつつ「張り子」の新たな可能性に挑戦し、日本の張り子文化を世界へ発信する事も積極的に取り組んでいる。

●郡山観光交通株式会社 / 孫の手トラベル 代表取締役社長 山口松之進さん



山口タクシーグループ代表取締役。1970 年、郡山市生まれ。大学、就職を経て1997 年に郡山に戻り、グループ入社。以来、福祉、旅行、飲食サービスと事業を多角化。郡山を心から愛し、地域の魅力発信、いいては地域の発展にド真剣に取り組んでいる。2018 年は復興庁「復興事業事例顕彰」で事業継承の成功事例として表彰、2019 年は FoodCamp 事業が環境省グッドライフアワードにて環境大臣賞優秀賞を受賞する。

●株式会社 富久栄商会 (店名 富久栄珈琲) 代表取締役 中島 茂さん



出身地郡山市で自家焙煎スペシャルティ珈琲店開業。米国、ブラジルの国際鑑定資格保有。世界で数少ない珈琲の国際審査員としてアフリカ、ブラジル等の審査会に招待される。珈琲の焙煎技術を応用し東北初のピーントゥパーチョコレート店を開業。アフリカのルワンダにおいて戸開開発を支援。珈琲とカカオで世界を笑顔で繋ぐがテーマ。「新しい東北」復興ビジネスコンテスト(復興庁主催)みずほ銀行賞。インターナショナルチョコレートアワードアジアパシフィックで東北初入賞。

テーマ②「今求められるコミュニティづくり」

●有限会社仁井田本家 女将 仁井田真樹さん



郡山市出身。創業 300 年を超える郡山市田村町の酒蔵「仁井田本家」で女将を務める。自社栽培の無農薬米と天然水で造る酒は、2019 年イタリア酒ソムリエ協会による酒品評会「ミラノ酒チャレンジ」の純米吟醸部門にて仁井田本家「にいだしぜんしゅ純米吟醸」が銀賞、またベストデザイン賞デザインプラチナ賞に輝くなど国内外で人気を集めている。「身体によい酒造り」をテーマに、米糀を原料とした砂糖不使用のスイーツなどの商品開発にも力を注ぐ。

●株式会社エフライフ 代表取締役社長 / スナックマスター 小笠原隼人さん



1984 年生まれ。埼玉県所沢市出身。一橋大学商学部卒業。大卒後、葬儀・お墓に関する事業を行うアクトインディ(株)に入社。2012 年 8 月に郡山市に移住。郡山にて子ども支援を行う NPO、創業支援を行う社団法人の事務局長等を経て、2017 年に株式会社エフライフを創業。地酒飲み放題の飲食店『ローカスナック SHOKU SHOKU FUKUSHIMA』マスターとして、毎日、かなり呑んでいるが、下戸体質。2020 年春から郡山駅東口にゲストハウスを開業予定。

●一般社団法人ブルーバード 代表理事 佐藤哲也さん



1974 年生まれ。須賀川市出身。フリーランスを経て、2011 年にヘルペチカデザイン株式会社を設立。現在、郡山を本拠地に日本橋との 2 拠点で活動中。震災後は、一次産業(農業)や地場産業のブランディングなど、様々な企業のクリエイティブを担当し、地域の魅力を探り発信している。また、2018 年 6 月には、郡山市清水台に一般社団法人ブルーバードを地元企業と共に設立し、地域活動の幅を広げている。

●温泉ゲストハウス湯 kori 代表 渡部景秋さん



2018 年までアパレル会社に勤め、店舗運営やマネジメント、人材育成などの仕事を経験。地元に戻り人と人が繋がる仕事がしたい、地域の良さを伝える仕事がしたい!!との思いから、2019 年 4 月に磐梯熱海温泉に温泉付きのゲストハウスを開業した。1F にはカフェバーを併設し、地域の方と宿泊者をつなぐ場所を作り、カフェ時間では地域の野菜やお米を使ったランチを提供、またバー時間では福島の地酒を提供し、地産地消を行いながら地域の良さを発信している。また、定期的に異業種とコラボイベントを開催し、地域活性を計っている。

■ようこそ『拠点都市こおりやま』へ



このイベントでは、震災から10年に向けて、首都圏を拠点とするメディアの皆様、福島県の『拠点都市こおりやま』において地域活性化のため新たな取組を開拓するキーパーソン達との交流を楽しみながら多様な魅力を知ってもらうため、トークセッションや各事業者によるブース出展を行った。

郡山の特産品や地酒の試食・試飲のほか、地元ならではの食材をふんだんに使った料理、伝統工芸品三春駒や三春張子人形の発祥の地「デコ屋敷」の張子職人による絵付け実演など、『拠点都市こおりやま』から生まれた“モノ”や“人”との触れ合いを堪能してもらうことができた。

青空レストラン事業“Food Camp”で2019年に環境省グッドライフアワードを受賞した「孫の手トラベル」や、オリジナルのスイーツでフード・アクション・ニッポンアワード2019を受賞した酒蔵である「仁井田本家」、ブックカフェや地元クリエイター向けの分譲オフィスを運営する「一般社団法人ブルーバード」、「新しい東北」復興ビジネスコンテストみずほ賞を受賞した「富久栄珈琲」など、今の郡山を代表する8つの事業者がメディアへ伝えたことは、”人と人との繋がり“の重要性だった。



■魅力発信・地域活性化は『拠点都市こおりやま』から 最大の魅力は挑戦者を育む風土

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催において郡山市がホストタウンを務めるオランダ出身で、郡山市で国際交流員として勤務しているヨースト・クラルトが『拠点都市こおりやま』の魅力を紹介した。

紹介のポイントは二つ。一つ目は、郡山市は福島県のほぼ中心に位置し、東京から新幹線で約80分の距離にある交通の要衝として人、物、情報が集まる各産業の均衡がとれたまちであること。

二つ目は、郡山市発展の礎となった、安積開拓・安積疏水の開さくによって培われたフロンティアスピリッツが今もなお受け継がれていること。

この二つに裏打ちされるように、『拠点都市こおりやま』として多様な人々を受け入れ、共生し、そして何よりも挑戦する者たちを育むことができる環境が整っている。これこそが郡山市最大の魅力である。



“人”が繋ぐ地域活性化の輪

インフラが整備され交通の要衝として拠点都市たる機能を有しているだけではなく、現在の郡山市が形作られるまでの歴史的背景に裏打ちされるかのように挑戦者を育む環境が魅力的な事業者の誕生に一役買っていると言える。

今回紹介する8人のキーパーソンたちがその事実を裏付けるがごとく、地域活性化に積極的に取り組み郡山の魅力を高



め、発信し続けている。

『拠点都市こおりやま』がその都市機能を最大限に発揮しハブ的役割を果たすだけでなく、これらの郡山を象徴する事業者が一つの拠点となり、コミュニティを創り出し、郡山市だけでなく、福島県全体の活性化に資することができるようサポートし、人と人を繋ぎ、地域活性化の輪を広げていくことが最も重要である。

■拠点都市『郡山』とメディアを繋ぐ充実の交流会

『郡山』の良さは“人”

14社18人が集まったこのイベントでは、参加した者の多くが郡山の“人”に興味を示した。

郡山ブランド野菜、鯉、クリームボックス、地酒やコーヒーなどの試食・試飲のほか、張り子の絵付け実演など、郡山の魅力盛沢山の交流会において、食や文化に対する興味や関心は高かったが、郡山の“人”に対するそれは特に高かった。



『郡山』の食と伝統文化

仁井田本家の『田村』や『にいだしぜんしゅ』、笹の川酒造の地ウイスキー、富久栄珈琲のスペシャルティコーヒーの試飲のほか、郡山ブランド野菜『御前人参』『紅御前』の生絞りジュースは、人参とは思えないほどの甘さがあり、試飲した者に驚きと感動を与えていた。



参加者には、ふるや農園の生ハム×仁井田本家の『にいだしぜんしゅ』、郡山が全国一位の生産量を誇る鯉の甘露煮×若関酒造の『さかみずき』、かんのやの純米煎餅『うに揚げ』×渡辺酒造の『雪小町』など、全5種の特産品と地酒のマリアージュを堪能してもらった。



食だけでなく、郡山の伝統工芸品の一つである、三春駒や三春張り子人形の発祥の地「デコ屋敷」の張り子職人による絵付け実演も行った。

郡山市の北東部にある西田町の山間にある高柴デコ屋敷。数百年に亘り伝統を守り続けている4軒のうち、今回は本家大黒屋の職人橋本氏が実演を披露した。

■キーパーソンである挑戦者たちは何を語るのか

トークテーマ①『つながりから生まれるものづくり・サービス』

Q富久栄珈琲と、笹の川酒造では「生フォンダンショコラ」や「ウイスキーボンボン」など、コラボレーション商品をつくっているが、それによってどんな効果があるか？



中島さん（株式会社富久栄商会）

『チョコレートという巨大なマーケットを使うことで、チョコ

コレート趣向者に地ウイスキー963を認知してもらうことができる。現にスコットランドからも評価の声が届いている。』

Q 笹の川酒造では様々な酒造りに取り組んでいるが、幅広い酒造りにはどのような狙いがあるのか？



安齋さん（笹の川酒造株式会社）

『例えば、日本酒は飲まないが、ハイボールは飲むという人には、ハイボールを通じて酒造りに興味を持ってもらい、そこを入り口として、日本酒や他のお酒を知ってもらうという様な流れを作ること意識している。』

Q 伝統工芸の活性化に取り組む「仕立屋と職人」とともに、張子の技術を活かしたアクセサリーを開発した大黒屋として、コラボレーションによる新たな可能性についてどう考えているか？また、伝統を発展させ、継続させるきっかけになるか？

橋本さん（高柴デコ屋敷大黒屋本家）

『異業種との交流により受ける刺激から新しい発想が生まれ新しい張り子が誕生する。逆にデザイナーへ張り子がインスピレーションを与えることもある。農とのコラボレーションで食べられる張り子を作るチャレンジも考えている。』



Q 孫の手トラベルのフードキャンプは、生産者、シェフのコラボによって完成する事業であり、ヒト、モノ、コト、トチの掛け合わせで生まれるビジネスでもあるが、コラボレーションの実現において、郡山の土地柄や、人柄が貢献している部分はあるか？

山口さん（郡山観光交通株式会社/孫の手トラベル）

『FoodCampは、生産者や料理人の顔が見え、食に対する安全と安心を提供できるほか、生産者と料理人の組み合わせに無限の広がりがあり、新しい価値を提供し続けることが可能。そういった理由から、リピーターも多く、県外からの参加者が半分以上を占め、これまでに開催した13回全てに参加している東京都民もいる。交通の要衝で参加しやすい環境が整っているのも強み。』



Q 今後どのようなコラボレーションや、事業をおこなっていききたいか？

山口さん

『コラボレーションから生まれる企業のアイデンティティをしっかりと伝えられる取り組みにチャレンジしたい。』

橋本さん

『若いアーティストに、高柴デコ屋敷がある集落（郡山市北東部の山間にある地区）に住んでもらい化学反応が起こせる取り組みにチャレンジしていきたい。』

安齋さん

『これまでもアスパラガスやトマト、牛乳、コーヒーなどを活かした酒造りに取り組んできたが、まだ見ぬ地元食材を開拓し、それらを活かした新しい酒造りを継続して展開していきたい。』

中島さん

『東日本大震災や原子力発電所事故の影響による風評払拭のため、他地域からの御涙頂戴ではなく、食材の宝庫である郡山市の“おいしい”ものを“おいしい”でストレートに勝負していきたい。』

トークテーマ②『今求められるコミュニティづくりとは』

Q佐藤さんは福島県の須賀川市出身、小笠原さんは埼玉県出身、震災以降郡山を拠点として活動している、震災前と後で、コミュニティづくりへの考え方に変化はあったか？また現在の考え方は？



佐藤さん（一般社団法人ブルーバード）

『溢れるほど沢山の情報をどう扱うかが重要だと感じた。情報を発信するだけでなく、必要とする人に適切にマッチングすることができるコミュニティづくりが大切。集まってきた人たちと明日を語り合う、そういった小さい積み重ねを沢山作っていきたい。』



小笠原さん（株式会社エコライフ）

『震災後間もなく移住を決断。被災者を憐れむ感情ではなく、被災した地域で自分が何をやれるか考えたとき、“楽しそう”という感情が生まれた。』

東京とは違い郡山では「何か成果を出さなきゃ」という心理的負担が少なく、気が楽。良い意味で緩い。コミュニティも生まれやすく、それが次のチャレンジを創出されるきっかけにもなっている。今後の展開としては、首都圏との人の循環を生み出すことを考えていきたい。』

Q近年は、地方創成の新戦略の柱として、短期滞在やボランティアなど様々な形で継続的に地域と関わる「関係人口」の拡大が提唱されている。ゲストハウス湯koriでも、異業種とのイベントなども多く開催されているが、宿泊者、参加者にはどのような方が多いのか？実現したいコミュニティとはどんな形か？

渡部さん（温泉ゲストハウス湯kori）

『地域の方と宿泊者を繋ぎ、価値観を共有してもらえる場所と、情報過多な現代において人から生の情報を得る喜びを提供したい。湯koriが目的地になるのではなく、ハブとして“湯kori来ると新しい発見が得られる”という想い



を抱いてもらえる宿になりたい。』

Q関係人口といえば、仁井田本家のサポーター制度では、市外の方も多く参加されています。どうサポーターの方々を集め、関係を築いているのですか？その秘訣を教えてください。

仁井田さん（有限会社仁井田本家）

『サポーター制度は感謝祭のボランティアの募集がきっかけで、特典付きの昇段カードを作成。

ボランティアとしての活動を通して酒造りへの興味や関心を駆り立てることができたことが、コアなファンを作り出すことができた最大のポイント。首都圏でのイベントに突然来てボランティアをしてくれたり、新年会を企画してくれたり、サポーターの皆さんにはいつも盛り上げてもらっている。』



Q拠点となる郡山では、市内外の方を巻き込んだコミュニティづくりが生まれてきている。まちづくり、場づくりに取り組んでいる立場として、他の自治体との違いや、今後の目指すべき理想の郡山とは？

仁井田さん

『スタッフの中に移住者が多いが、移住しやすい環境が整っている印象が強い。』

渡部さん

『郡山市を観光体験型の都市にしていきたい。その中で繋ぐ役割を果たしていきたい。』

小笠原さん

『まずは郡山に来てもらって、私たちがハブとなり、郡山だけでなく福島県の魅力を伝えていきたい。』

佐藤さん

『自治体と民間がとても仲が良いところも郡山の魅力。感覚的に距離が近く、様々な場面で相談ができるので、自治体と協力し合いながら新しい挑戦をしていきたい。』

参加者の声

No.	質問内容	回答内容					
問1	今回、参加した主な目的、魅力を感じた部分	・東京との近さ・アクセスのしやすさから拠点移住先として注目していたから。 ・郡山・福島出身の知人が多いため、より濃い郡山をしりたかったため ・何度も訪れる予定があり、魅力をしりたかったため ・アクセスの良さ、町の印象は強いが、観光名所が思いつかなかったため、知るために参加を決めた。 ・若い方たちがコミュニティづくりに努力していること ・郡山の魅力は"人"にあると感じ、もっといろんな"人"に出会いたいと思ったから					
問2	本日の内容を聞き、郡山に興味が湧いたか	興味が湧いた		やや興味が湧いた		どちらともいえない	
		100%		0%		0%	
問3	本日の内容を聞き、郡山に興味が湧いたか	食	観光	人	取り組み	その他	
		29%	18%	35%	18%	0%	
問4	特に印象に残った事業者	笹の川酒造株式会社		高柴デコ屋敷大黒屋本家		郡山観光交通株式会社/ 孫の手トラベル	
		67%		33%		67%	
		株式会社富久栄商会		有限会社仁井田本家		一般社団法人ブルーバード	
		50%		83%		67%	
		株式会社エフライフ		温泉ゲストハウス湯KORI		印象に残らなかった	
		67%		67%		0%	
問4	問4で印象に残った点	・若い世代の方々も、関市ある事業者の方も、それぞれ新しい取り組みをしている点 ・福島といえば日本酒ということで、酒造会社のお話が印象的だった ・肩肘はらずに自然な感じで取り組んでいるところ ・みなさんが心から楽しそうにしているところ ・Team郡山として、事業者・住民・官民一体となっている点					
問5	イベントの前後で郡山の印象は変わったか	変わった		やや変わった		どちらともいえない	
		83%		17%		0%	
問5	問5を受けて、どのように変化したか	・郡山についてはよくわからなかったが、人、食、観光面で魅力ある都市だと感じた ・とにかくもっといろんな人に会って話を聞いてみたい。					
問6	そのほか講義について気になった点、今後知りたい・学びたいことなど。	・有意義だった。まずは現地にいったみたい ・3.11が人々にいろいろなことを考えるきっかけになったと改めて思った。東京都郡山の人々とのつながりが、今後の課題では。 ・新しいとりくみについていろいろ聞けてよかった。都市の行き来やすさというのが、郡山の魅力を肌で体感しやすく、インフルエンサーが増えている理由として大きいのだろうと思った。					